2020 年 9 月 27 日
早稲田大学　松岡　俊二

環境経済・政策学会 2020 年大会・企画セッション
2020 年 9 月 27 日（日）13:50-15:50、オンライン開催

1. テーマ：1F 廃炉の先を考える：福島における「復興と廃炉の両立」とは何か？

2. 本企画セッションの背景と目的

本企画セッションは、福島復興の要（かなめ）である福島第一原子力発電所（1F）廃炉について検討し、福島における「復興と廃炉の両立」とは何かを考える。さらに、1F 廃炉だけでなく世界の原子力発電所の廃炉（decommissioning）事業と地域社会との関係についても議論する。

現在、世界で 186 基の原子炉が恒久停止になっているが、17 基しか廃炉事業は完了していない*。また、世界で運転中の 443 基の原子炉のうち、110 基はすでに 40 年以上が経過している*。21 世紀の世界は、原子力発電所の「廃炉の時代」を迎えることとなる。

日本では、現在、27 基の原子炉が恒久停止になっており、旧・日本原子力研究所（現在の JAEA）の東海村の動力試験炉（JPDR）だけが廃炉完了し、商業炉では日本原子力発電の東海原子力発電所の廃炉作業が進行している。

福島原発事故から 9 年余が経過した今、1F 廃炉（事故処理）事業が本格化している。廃炉作業の安全確保や放射性廃棄物管理などの視点から、日本原子力学会では 1F の「廃炉の先（End State）」の検討が行われているが、技術的観点からの検討が主であり、社会的観点や地域社会との関係は今後の課題とされている。

本企画セッションでは、1F 廃炉のあり方や廃炉の先につき、技術的側面だけでなく、原発事故の教訓の継承や地域社会との関係といった多様な観点からの社会的側面からも検討する。また、イギリスなどの海外の廃炉事業における地域対話や原子力発電所の文化遺産（Nuclear Cultural Heritage）議論なども踏まえ、福島における「復興と廃炉の両立」とは何かを考える。

＊国際原子力機関（IAEA）発電炉情報システム（PRIS: Power Reactors Information System）
URL: https://pris.iaea.org/pris/（2020 年 2 月 17 日閲覧）

3. 企画セッションの構成（報告は各 15 分、討論は各 6 分でお願いします。）

座長：松本礼史（日本大学生物資源科学部教授）

報告 1：〇松岡俊二（早稲田大学）
「復興と廃炉の両立とは何か？：1F 廃炉の先研究会の活動から」
報告 2：〇井上　正（電力中央研究所）・松岡俊二（早稲田大学）
「1F 廃炉とその課題」
報告 3：〇朱　鈺（早稲田大学・院）・山田美香（早稲田大学・院）
「原発廃炉の地域対話について：イギリス Dounreay 原発を事例に」
報告 4：〇CHOI Yunhee（早稲田大学・院）
「原子力文化遺産について：イギリス Dounreay とアメリカ Hanford を事例に」

討論者：森口祐一（東京大学大学院工学系研究科教授、国立環境研究所理事）
吉田英一（名古屋大学博物館教授）
竹内真司（日本大学文理学部教授）
笹尾英嗣（日本原子力研究開発機構・東濃地科学センター地層科学研究部長）
＊除本理史（大阪市立大学大学院経営学研究科教授）